

令和5年度 京都市立九条中学校

学校評価アンケート 集計結果

【後期・保護者】

《実現度》

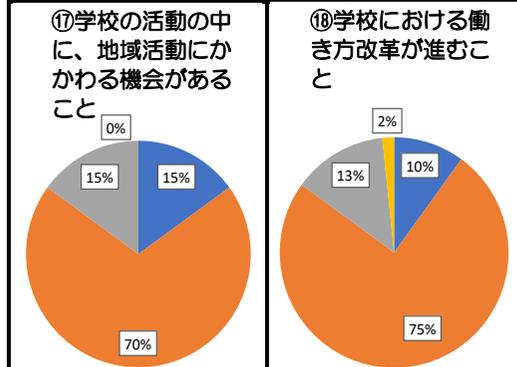
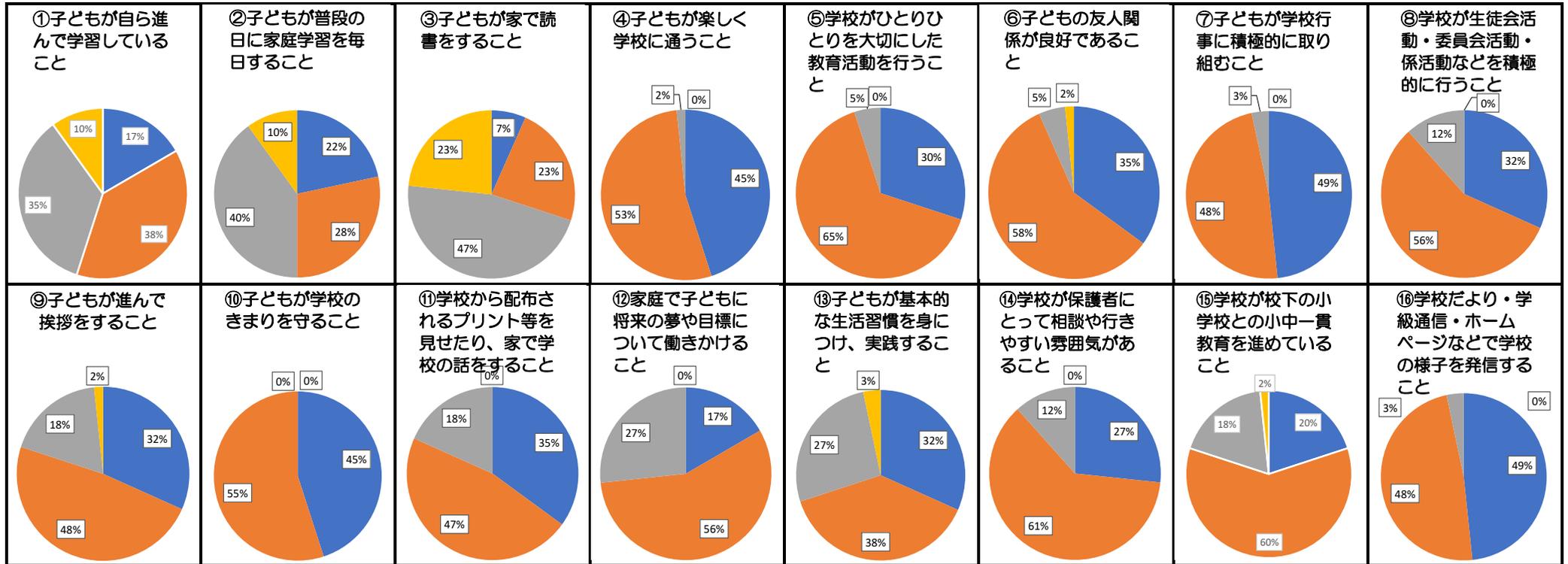
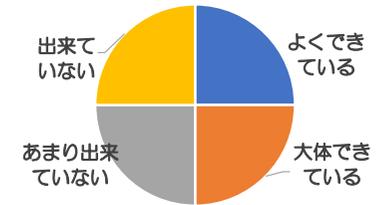


令和6年2月1日  
京都市立九条中学校  
校長 川島 浩明

後期 学校評価を報告します

保護者の皆様、令和5年度 後期学校評価アンケート (Forms) にご協力いただきありがとうございました。  
集計結果をご覧いただき、今後とも本校教育にご理解とご協力いただきますよう、お願いいたします。なお、本校の「学校目標・学校経営方針」に視点を置いて報告いたします。また、ホームページや学校運営協議会にも報告し、ご意見をいただきたく存じます。

グラフの見方



後期学校評価アンケート (保護者) 集計の結果から、保護者目線での①～③『こどもの学習活動に対する主体性』について、家庭学習は『できている』がおおよそ半数程度で、読書については30%と決して良い状況とは言えない。特に読書の習慣が定着していない結果から、こどもたちにとっては、パソコンやスマホが中心の多様な生活様式があるので、毎日の学校生活のスタートに位置付けている朝読書を通じて、読書への親しみを定着させて、こどもの自らの学ぶ力の育成に繋げたい。

次に、④～⑧の『こどもと学校との関係性』については、毎日楽しく通うことができ、友人等との人間関係も良好、学校行事、生徒会活動等へも積極参加できているという、学校生活を楽しめているという大変嬉しい結果である。また、⑨～⑬の『あいさつや学校のきまりを守る』また、『家で学校の話で会話する』といった情緒面や規範意識についても概ね良好と言える。

『家庭でこどもの将来の夢や目標などを話し合ったり』『こどもの基本的な生活習慣』を保護者として一定の評価ができているなど、将来に向けたこどもの人間形成に重要であり、家庭の教育力と共に手を携え、引き続き大切に育みたいと思う。⑭の『保護者にとって相談しやすい学校』という評価についても、今後も、さらにその信頼や期待に応える事が出来るよう努めたい。

最後に、⑮～⑰の『地域との関わり』については、地域、PTA、小学校との連携を基とした、九条のこどもを9年間かけて育てるという『施設分離型小中一貫校』としての学校教育の指針『九条生活・学習プラン』に沿った生徒の育成を通じて、学校教育目標の具現化を図りたい。